



夢追人VI

かとう学園 宗像市立河東中学校
学校通信第4号(R4. 4. 19)

3年ぶりに4月に授業参観、進路説明会、PTA総会を実施しました。保護者の皆様、ご来校ありがとうございました。

4月16日(土)1時間目に7・8年生は授業参観、9年生は進路説明会を行いました。この2年間は、コロナ禍で4月の行事を全て中止してきました。本年度は、これまでの感染防止対策の経験知を生かして、3年ぶりに実施に踏み切りました。保護者の皆様には、換気をよくするため、気温が低い中でも窓を開けての参観や会話を控えてもらうなど、ご協力いただき、ありがとうございました。9年生は、この時期に進路説明会が開くことができ、本格的な進路選択についての情報が共有できたことは、大きな意義があったと思います。

また、PTA 総会では70名を超える会員の皆さまに出席いただいて、総会もスムーズに進行しました。昨年度の旧役員の皆様に改めて感謝申し上げるとともに、本年度の新役員の皆様を中心に河東中の子どもたちのためにご協力よろしくお願いいたします。

令和4年度 河東中教職員一覧

情熱あふれる河東中のスタッフです。
力を合わせて651人の生徒を育てます。

職名	氏名	教科	職名	氏名	教科
校長	原 田 博 幸	社会	9の1	脇 田 恵 理 子	理科
教頭	笠 井 康 行	保体	9の2	古 川 兼 太 朗	保体
主幹教諭	村 瀬 聖 二	数学	9の3	甲 斐 雅 子	英語
7の1	中 村 実 桜	国語	9の4	仲 野 明 志	数学
7の2	碓 文 果	国語	9の5	藤 田 和 也	数学
7の3	渡 邊 雅 之	保体	9の6	賀 門 雅 也	社会
7の4	宮 崎 伸 子	社会	特別支援学級	管 野 か お り	国語
7の5	杉 野 祐 一	数学	特別支援学級	廣 渡 栄 子	音楽
7の6	宮 本 勝 延	英語	副担任	安 部 泰 恵	国語
特別支援学級	田 代 典 之	理科	副担任	今 村 素 子	音楽
副担任	井 上 裕 二	理科	副担任	森 多 妃 子	保体
副担任	岩 佐 契 子	美術	副担任	山 下 未 来	英語
副担任	川 口 米 喜	社会	養護教諭	吉 松 絵 理	
副担任	中 野 広 貴	英語	栄養教諭	森 奈 々 江	
副担任	西 嶋 貴 洋	技術	特別支援教育支援員	三 輪 朋 子	
8の1	伊 藤 由 貴	家庭	特別支援教育支援員	永 島 恵 子	
8の2	高 橋 さ な え	保体	企画主査	松 尾 由 起 子	
8の3	野 口 雄 矢	理科	主査	田 淵 優 美 華	
8の4	長 尾 涼	英語	事務補佐	中 溝 と も 子	
8の5	清 水 美 貴	数学	事務補佐	後 藤 貴 子	
8の6	二 階 堂 進	社会	図書司書	田 中 良 子	
特別支援学級	田 村 俊 雄	国語	ALT	ケン・ミラー	
副担任	岡 野 富 朗	技術	ALT	ダロン・モアヘッド	
副担任	古 賀 友 都	理科	スクールカウンセラー	高 原 綾 子	
副担任	齋 藤 律 子	国語			

心と言葉

人間に一番大切な力って何でしょうか。それは、心の力ではないでしょうか。そして、心を養ってくれるのが言葉です。いい言葉を聞けば聞くほど、使えば使うほど、心は豊かになり、心の力が強くなります。

心を大事に育てていきましょう。心を豊かにし、成長させていきましょう。でも、心を大事にしたり、豊かにしたり、成長させるのは、なかなかむずかしいものです。どうやったらいいのかわからないものです。

心を豊かにし、成長させるために重要なのは、言葉の力です。言葉の力をうまく使えば、心を養うことができます。いい言葉を聞けば聞くほど、心は豊かになります。いい言葉を使えば使うほど心は強くなります。

自分の心の中で一日中飛び交っている言葉を少し意識してみましょう。自分に対して、「がんばろう!」「やってみよう!」「大丈夫!」と言葉をかけるとき、心はどうなるでしょうか。心の中で、「あきらめよう」「だめだ」「無理だ」と言葉をかけるとき、心はどうなるでしょうか。どちらの言葉を選ぶかによって、心が変わるとともに、状況も変わってきます。

心をコントロールすることはむずかしいけれども、言葉をコントロールすることはできるはず。意識して言葉をコントロールする。つまり、自分にとってプラスになる言葉、いい言葉をたくさん使うことで、心を成長させることができます。

また、俳句や短歌や詩、あるいは物語に描かれている言葉によって、心は翼を広げて様々な世界へ飛ぶことができます。言葉によるイメージで、心は遠い世界や宇宙に旅することができます。

心を養うには、言葉だけでなく、音楽や美術を鑑賞したり、花や木などの自然を観察したり、スポーツに取り組んだりすることによってもできます。それらについては、別の機会に書きましょう。

河東中生には、日々の生活の中で、教室でもグラウンドでもたくさんのいい言葉が飛び交い、いい言葉にいざなわれて心が成長していくことを願っています。

『西日本新聞』(R4.4.1)に掲載されたちょっといい話

アメリカのある町に目の不自由な少年がいた。野球が大好きで、あこがれの大リーグ選手に手紙を書いた。

<僕は目が見えません。でも、毎日あなたのホームランを楽しみにしています。手術をすれば見えるようになるそうですが、怖くてたまりません。あなたのような強い心がほしい。僕のヒーローへ>

少年のことをメディアが取り上げ、選手との対面が実現した。2人はこんな約束をする。「次の試合で選手がホームランを打てば、少年は勇気を出して手術を受ける」

試合当日。選手の最後の打席だ。3ボール2ストライク。観客はかたすをのんで次の一球を見守る。少年も祈るようにテレビ中継に耳を傾けていた。ピッチャー投げた。豪快な空振り。ボールは無常にかッチャーミットに収まった。

球場がため息に包まりかけたその時、実況中継のアナウンサーが叫んだ。「ホームラン!月にまで届きそうな大きな、大きなホームランです。」

後日談もある。試合の1年後、球場にヒーローのホームランに歓声を上げる少年の姿。手術は成功したのだ。

